

授業科目 中枢神経系理学療法学(小児)

【担当教員名】 押木 利英子		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	5 (うち 1 単位)	時間数	135 (うち 30)
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		◎	
				態度	
				○	
				技能・表現	
				○	
【概要】 正常運動発達を理解し、小児理学療法に必要な発達評価の目的、方法について学習する。さらに、治療理論を学び、代表的な疾患の病態、評価、問題点、治療の概要を学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達原理が理解できる 2. 正常運動発達の過程を具体的に想定できる 3. 小児理学療法法の適応と目的を理解できる 4. 運動発達に関する評価項目を挙げることができる 5. 評価内容を理解し具体的手順を想定できる 6. 各種評価法を適切な手順で実施できる 7. 学生間で協調的・計画的に協働作業を取り組みことができる 8. 得られた情報を適切にまとめ、発表できる 9. 小児理学療法法の対象となる代表的な疾患の概要と病態把握ができる 10. 発達障害をきたす疾患の評価と治療の概略説明できる 11. 小児理学療法法の基本的な治療方法を説明できる 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	発達概論 正常運動発達 (1～12ヶ月)			1, 2	講義、担当：押木 利英子
2	正常運動発達 (1歳～、手の発達、言語発達)			2	講義、担当：押木 利英子
3	小児理学療法概論 発達理論			1, 3	講義、担当：押木 利英子
4	各種発達テスト			4, 5, 6	講義、担当：押木 利英子
5, 6	反射テスト、バランステスト、筋緊張テスト			4, 5, 6	演習、担当：押木 利英子
7, 8	保育園実習 (健常児の発達評価)			5, 6, 7	実習、担当：押木 利英子
9, 10	保育園実習評価事例の発表			7, 8	実習、担当：押木 利英子
11	ICFによる事例評価 (先天性奇形児)			5, 9	講義、担当：押木 利英子
12, 13	脳性まひ児の理学療法			9, 10, 11	講義、担当：押木 利英子
14	知的障害児の理学療法			9, 10, 11	講義、担当：押木 利英子
15	小児整形疾患児の理学療法			9, 10, 11	講義、担当：押木 利英子
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		小児理学療法テキスト	田原弘幸 他	南光堂	2010・4,000円＋税
		乳児の発達の見方のエッセンス	吉岡 博	医歯薬出版	2008・1,600円＋税
参考書					
その他の資料		授業中に配布するプリント			
【評価方法】 出席、態度、小テスト、レポート、筆記テスト その他			【履修上の留意点】 動きやすい服装で参加して下さい。 質疑を歓迎します。		